

令和4年度第5回舞鶴市文化振興審議会会議録

日 時：令和5年1月17日（火）13：30～14：30
場 所：舞鶴市役所 別館5階 中会議室
出 席：（委員）中川委員長、直田副委員長
浦岡委員、江上委員、小森委員、立道委員、田中委員
（事務局）三方室長、奥本館長、佐藤、矢内
欠 席：上杉委員、鈴木委員、福本委員

会議内容：

1 中川委員長 開会あいさつ

- 本日次期計画について答申を出す。今一度再確認の上、計画の完成に協力をお願いしたい。

2 議題

(1) 第2次文化振興基本計画答申案について

（事務局説明）

- 第2次舞鶴市文化振興基本計画 審議会 答申（案）について、前回の審議会での意見を踏まえた変更点を説明。【資料1】

（委員からの主な質問・意見・確認事項等）

- 「文化プロデューサー」という言葉が気になる。これまでの審議会において出てきていない。次期計画では「アートコーディネーター」を設置する、或いは育てることをメインにしていると認識している。
→（委員長）「文化プロデューサー」は現計画でも使っている言葉ではあるが、現状では少しハードルが高いと感じる。「アートコーディネーター」等に文言を修正してはどうか。
→（事務局）該当箇所について、適宜、文言修正等行う。
- P8)□文化環境（施設等）の中に、総合文化会館を直営化して何が良くなっていくのか、市民の文化が直営化によりどう変化するのか、を具体的に記述いただきたい。
→（委員長）財団は採算性を求められるが、直営化によって社会福祉的な事業を優先して実施出来る（文化的人権の保障）、市職員がまちをとら

え直す機会となる（人材育成）、プロデュース機能の増進といったメリットがある。そういった点を追加して記述する。

- P22)（取組例）6つ目「文化団体と、福祉、産業、環境、まちづくり、子育て、教育など異分野の団体（企業・事業者を含む）と連携しよう。」の主体について、市が異分野の団体との繋ぎ役となることを期待し、市の「△」を「○」に変更してほしい。
→（事務局）「○」に変更。
- P26)重点項目の②子どもが心豊かに成長できる環境づくりに、幼稚園、保育所等との連携が記載されているが、成果指標は小中学校が対象となっている。幼児も対象にしてほしい。高校からもアート・プログラム・デリバリーの対象に入れてほしいと要望を聞いている。
→（事務局）成果指標については、あくまでシンボリックな目標を記載しているもの。今後、事業範囲は広げていきたい。
- 分かりやすく伝わりやすいものになった。市が旗振り役となり、皆が同じ方向に進めたら素晴らしいと思う。自分も伝えていく1人として活動していきたい。
- P20～25 文化振興の柱ごとの施策の方向（取組例）の主体の欄は市民に「◎」が一番多いが、現状は市民がこの計画から一番遠い。文化は自らの生活に関わることだということを市民に伝えていくことこそ、市がまず実行していくべきことだと考える。

3 その他

- この後、委員からの意見を元に修正した最終案を市長に答申する。（最終案については委員長、副委員長に一任いただく。）